

令和4年度（第34期） 事業報告書

令和4年4月1日～令和5年3月31日



[この写真](#)の作成者 不明な作成者 は [CC BY-SA](#) のライセンスを許諾されています

令和4年度（第34期）事業報告の概要

コロナウイルス感染症は6派、7派と変異を続けながら令和5年の初頭まで感染拡大を続けているものの、症状が比較的軽傷化し「ウィズコロナ」への局面へと移行、行動制限がなくなり飛騨方面への観光客も増加し、コロナ禍前の9割ほどに回復した。また、国交省による全国旅行支援による岐阜旅コイン、また各社によるスタンプラリーのほか、地元のイベントも縮小ながらも予定通り開催され多くの来客者がもどってきた。

温泉においては、6月に入浴料金を一部改訂し大人650円が700円となった。

ローソンについては、6月末をもって経営を停止し、賃貸契約により7月から加子母店が現地店舗を閉め花街道店として経営することになった。（賃貸料金は月275千円）

地域事業としては、中津川市が、東京大学工学部と研究実験を行っている次世代交通網プロジェクトが令和4年1月には「未来社会実装協議会」となり、付知町振興公社も協議委員として継続参加していくこととなった。また花街道裏に位置する付知川河川敷を利用した「ミズベリングプロジェクト」も調整協議会が立ち上がり、このほど県から占有許可がおりる見込みとなり（令和5年5月）本格的に事業がはじめられることとなった。